

いま  
中野区は!

こん どう しょう じ  
**近藤 正二**

私の区政報告 No.29

2003年3月30日発行



## 引退のご挨拶

私、近藤正二は、皆さんに推され、支えられ、半世紀の永きにわたり中野区政に携わってまいりましたが、このたび区議会議員を引退することにいたしました。

昭和26年、25歳の東大生で区議会議員となった私も、喜寿を迎えました。幸いにして身体もまだ元気ですし、政治を考え、地域を思う気持ちは誰にも負けないと自負しております。しかし、議員が公職の仕事である以上、きちんと自分の幕を引くところまでが「仕事」だと判断し、引退の決意をいたしました。

毎回の「私の区政報告」でお伝えしてきましたように、今の中野区は、経済的に行き詰まり、本来あるべき区民のための施策に手が回りません。16年にわたるオール与党体制で行政との慣れあいが続けた議会は、いまや政策立案や行政チェックの場ではなく、各政党や個人の「自己主張」の場となっています。

私は、「区議会は住民の視点に立つものであり、税金を支払う区民のためにあるべき」との考えを貫いてまいりました。そのために、たとえ1人になろうと、区政の間違った流れには常に立ち向かい、反論を述べ、税金のむだ遣いをチェックしてきました。また、住民運動をされる多くの皆さんと知りあい、区と掛合い、区民と区政の橋渡しをしてまいりました。「未来を担う子どものために」教育行政には特に力をいれてきました。

それらの活動にもかかわらず、今、中野区が財政破綻を理由に、区民の生活を守れない事態に陥ってしまっていることが無念でなりません。特定の政党や組織の支援を持たない私を支えてくださった皆さん、親子3代にわたって私を支持してくださった地域の方々に対し、「なんの面目があって応えられるか」との思いであります。

私の次女 近藤さえ子は、今、介護保険を受ける母の介護をしながら、二人の小学生を抱える母親として野方でPTAや地域の活動に積極的に参加しています。その中で「この区の決定はおかしいのでは?」「これはいったいどうなっているの?」といった生活者の視点からの疑問を持ち、区への陳情などを重ねてきました。子育て、介護、不況下の生活、それぞれの生活現場で、悩み、苦勞する住民の日々の生活を支えるはずの区政の姿が、今見えてこないのです。

「このままでは、私たち立場の弱い者はどうなるの?」日々の生活から危機感を抱く近藤さえ子は「父の意志を継いで、私に出来ることからやっていきたい」と言ってくれました。

近年の中野区の選挙の投票率は40%前後。これは、世間で言われる「若い世代が投票に行かない」という理由だけではなく、「何もしてくれない区政」「日々の生活に関係ない区政」、つまり身近な政治が消えてしまっていることへの、区民の批判の数字でもあると思われます。

地域の明日を変えていくのは、そこに住む住民の意志であり、まじめに生活している区民の皆さん、お一人お一人なのです。どうぞ、諦めないでください。かならずや、住民の働きかけから生まれる新しい地域の動きが出てくると私は信じています。上からの押し付けではない、住民が本当に必要だと思うところに区政を使っていく、これからの地域自治体のありかたはそうならなくてはなりません。

私のこの思いは、かならずや娘 近藤さえ子の世代が引き継いでくれるものと思います。



私、近藤正二は11期にわたってつとめた中野区議会議員を引退いたします。議員を退いても、これまで積み重ねてきた知識と経験を生かしながら、私はいつも皆さんとともにありたいと思います。

皆さん、永い間ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

# 中野区と近藤正二の歩み

## 「北原文化クラブ」

昭和21年、敗戦の荒廃の中、北原小学校の同窓会を中心に、地域の青年男女が集まり若者の文化活動が始まった。

日々の食物にも窮する時、勉強したいが先生はいない、設備もない、これは小学校から大学まで同じだった。学生たちは自主的に自分の得意分野を小学校で教える一方、大学の抽象的な学問に満足できず、生活に密着した「本当の勉強」を求めて 知識人を訪ね、講演会を開催、音楽・美術鑑賞や演劇会を開いた。「北原文化クラブ」の夏の講座は45年続いた。

## 全国最年少議員

昭和26年、東大の学生であった25歳の近藤正二は、「北原文化クラブ」の仲間と地域の知識人に推され、中野区議会議員に立候補し初当選。

作家の壺井栄さん、画家の三岸節子さんらに推され、哲学者の古在由重さんに「実践活動のない歴史家は意味がない」と言われ、ラップマイクを握り、仲間とリヤカーを引いての選挙だった。

## 平和運動



昭和29年ビキニ島核実験の後、近藤正二は「原子兵器放棄と実験禁止」の区議会決議を提案。全会一致で決議され、全国初の国会への提起となった。

この後も、反戦・反核運動、憲法擁護運動には、常に積極的に取り組み続け、本年（平成15）2月にも、近藤正二の声かけで、「アメリカのイラク攻撃に反対する中野区民の緊急集会」が中野駅前で開催された。（左写真）

## 教育・子育て

小中学校の教育現場施設の整備、全校にプールや体育館配置、PTA活動の活性化、青少年問題に取り組む地域の組織化、青年館や図書館の建設、児童遊園の整備など進めた教育事業は数多い。

現在区内で一番の利用率を誇る北原児童館の建設を実現したのも地域の子育て支援のためであった。今財政難の中野区には児童館を作る余力はなく、この北原児童館が区立の最後の児童館となったのは皮肉である。

今年、大地震の時危険と判断された北原小学校の1階と2階の壁と給食室などを1億円以上かけて鉄筋で補強することが決定した。

他の自治体に先駆け、教育委員の準公選制度を推進し、各党派の主張の調整役を果たし実現した。やがてこの準公選制度そのものが政党対立の道具に使われ1994年に廃止された。これは現在、各地方自治体で起こっている、教育委員会の活性化の動きに逆行するものである。



環境を守るために、環七や新青梅街道の街路樹植樹を次々に進めた。

中野区は1人当たりの公園面積が都内で一番少なく、緑地面積も少なかった。近藤正二は計画的に公園を作ることを進めた。各公園予定地を調査する近藤の姿が地域の警官の話題になり、野方警察では近藤正二を「公園の区議さん」と呼んでいた。

起債の制限があった当時、多額の金を一度に支払うことはできなかった。そこで、町会や友人の署名を集め、土地所有企業や個人に個人的に働きかけ、計画的に予算化して、下のような多数の公園を作ることに成功した。（年次順）  
わかたけ公園・沼袋西公園・たんぼぼ公園・江原こぐま公園・みつわ公園・鷺南公園・平和の森公園・こうさぎ公園等

## 「公園の区議さん」

区民の生活に密着した多くの住民運動に近藤正二は参加、区と掛合い、区の決定を覆してきた。中野中央図書館（もみじ山）を良くする住民運動の推進役鈴木由美子さんに、当時のことを語っていただいた。

10年前に開館した中野区立中央図書館の広いフロアは多くの区民に親しまれています。しかし、当初の計画案はひどいものでした。図書館部分は細長いフロアをヨウカンのように積んだだけ、1階には大食堂を入れるという区議会の利権勢力の計画案に区側も同調、「良い図書館を作る」目的など二の次三の次でした。この欠陥計画案に私たち図書館利用者は反対し、松岡享子さんたちと区に反対陳情をしました。近藤正二さんは、各政党が区に同調する区議会の中で頑張って住民意見を通してくださいました。こうして21世紀に通用する図書館ができたのです。

鈴木由美子（新井在住）

## 住民運動

これら、近藤正二の活動記録は、一冊の本にまとめて出版する予定にしております。